

陸上運動部部便り

2010年5月号

関東インカレ

目次

1 関東インカレ	1
1.1 監督の言葉	1
1.2 主将の言葉	1
1.3 女子主将の言葉	2
1.4 試合経過	2
1.5 試合結果	10
2 2010年度部内5傑 2010.5.23	13
3 自己記録更新者一覧 2010.4.4~5.23	15
4 主務より	15
4.1 応援OB・OG紹介	15
4.2 行事予定	16
4.3 連絡先(慶弔等)	16

1 関東インカレ

1.1 監督の言葉

監督 藤田 靖浩

5月15、16、22、23日の四日間にわたり、関東インカレが行われました。当部の入賞者は競歩早川が4位、同瀬川が8位、円盤投佐々木8位、走幅跳西田が6位、でなんとか二桁得点の10点を確保することができました。また、走幅跳の西田は100mでも10"83と自己記録を更新し、今年度中に、10"69の東大記録も狙えるような走りを見せてくれました。

出場した選手は各自、自己ベストもしくはそれに近い記録で全力で力を発揮してくれた一方で、それがなかなか結果に結びつかないという地力不足を感じさせる結果でもありました。来年は日体大、大東大が一部に昇格し、フィールド・短距離の強い上武大、平国大が二部というなかなか

厳しい状況になりますが、両リレーをはじめ、来年は決勝で得点も狙える種目も多々あります。

まだシーズンは始まったばかり、今後とも部員一同練習に励み、各自納得のできる結果を残せるよう、努力していきたいと思えます。

なお、次回の対校戦は6月13日の国公立戦となります。活きのいい1年生も出場します(インターハイ出場者も二人)ので、是非お時間の許す限り、応援に来ていただけると幸いです。

今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

1.2 主将の言葉

主将 酒谷 彰一

これが現状の力

3種目4人が入賞、計10点で総合23位。極端に失敗した選手もおらず、出場しないサポートの部員も含めて現状の東大陸上部がベストを尽くした結果がこれです。

上記の結果をどう評価するかは今これをお読みの先輩方にお任せ致しますが、個人的な思いとしては関東インカレに出場すること自体が一つのステータスになってしまっている現状を非常に歯痒く思っております。将来的な目的である一部昇格を果たすには力不足であることは認めざるを得ませんが、それでも「関東インカレで戦うんだ」という強い意志をチーム内に浸透させ、数年後には2部校の上位争いができるチームになるように仕向けていかなければ、と思う次第であります。

やや厳しい文章となってしまいましたが、主務の早川(4年)が10000mWで1年前のブービーから4位へと大躍進したこと、西田(4年)が100m10"83、走幅跳7m04というレベルの高いパフォーマンスを見せてくれたことは非常に明るい

話題です。今シーズンは2校対校戦に勝利するのは勿論のこと、それ以外の大会で優勝を果たすことも虎視眈々と狙っております。今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い致します。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 高山 花子

女子は今年個人出場は院生の楠木 (M1) ののみとなりましたが、昨年に続き4 × 400mRに出場することが出来ました。楠木は女子2部で優勝となりましたが、リレーは他大学と大きく引き離され、チームベストは大幅に更新したものの勝負に絡むことすら許されない厳しい結果となりました。学部生での個人出場が叶わなかったことも含め、関東インカレの舞台で戦うための実力差を痛感しました。幸い、冬季中怪我に苦しんでいた部員も徐々に復帰し始め、新しく4名の女子部員も入部したので、来年度はリレーを含めた多種目出場が出来るよう、後輩達にはより高いレベルで戦うことを目指して行ってほしいと思います。そのためにも、今年度の対校戦で結果が出せるよう、女子主将として努力してゆきます。OB、OGの皆様、今後とも御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い致します。

1.4 試合経過

トラック 1日目 (5/15)

12:15 男子2部 110mH 予選

2組7レーンに酒谷(4年)の出場。今季15"25をマークしており、調子はまずまず。レース前の練習でもハードリングにキレがあり、自己ベスト更新に期待がかかる。スタートでは他選手に遅れをとってしまうが、持ち前の深い前傾の伸びやかなハードリングで6台目付近には追いつき、終盤で2番手に浮上。10台目に抜き足を引っ掛けたもののそのまま15"10の2着でフィニッシュし、着順で準決勝進出を決めた。このときの風は+3.8mだった。1着にはやや離されたが、3着以降の追従を許さないスピードに乗ったレースであった。また、追い風参考ではあるが好記録

である。準決勝に期待がかかる。

5組3レーンに増本(4年)の出場。レース前の練習で抜き足を引っ掛けていたのが心配である。スタートの反応はまずまずで1台目は横一線となった。しかし、リード足がなかなか下がらず抜き足が残ってしまいスピードに乗れない。少しずつ他の選手と離されていき中盤から終盤にかけて5番手となる。結局計5台ほどハードルを引っ掛けてしまうが、最後に1人かわして15"72の4着でゴール。このときの風は+2.3m。惜しくも準決勝進出を逃してしまった。以降の対校戦に向けハードリングの調整を行い、より高いラウンドの進出を望む。

13:30 男子2部 100m 予選

1組6レーンに西田(4年)の出場。10"61の参加記録を持つ福島(日体大)を中心としたレースが予想されるが、予選通過が3着+4であるから3着以内に入って着順での準決勝進出を狙いたい。また、舞っていた風も弱まりコンディションも整う中、自己ベストの更新が期待される。

1度目のスタートではフライングがあり再スタートとなる。2度目のスタートは落ち着いてきっちりと合わせ、素晴らしい加速と相まって序盤のレースを支配的に進める。しかし中盤以降、8レーンの福島が頭一つ抜け出し、他の7人で2番手争いを繰り広げる展開となる。激しい接戦が繰り広げられる中、西田は終盤やや遅れ、10"83の5着でゴール。このとき、風は+0.1mであった。

5着となった西田であったが、ほぼ無風の条件下で自己ベストを0"12も更新し、全体の4着以降の選手の中で2番目の記録となり、見事に準決勝に進出。他の組の結果が振るわなかったこともあり、翌日の準決勝に期待の持てるレースとなった。

14:45 男子2部 110mH 準決勝

2組7レーンに酒谷(4年)の出場。予選の好ハードリングに期待も膨らむ。4着以内に入れば決勝進出。主将としても、ここは決勝に進んでチームを盛り上げたいところだ。

号砲が鳴る。まずまずのスタートを切った。

しかし、1台目にリード足をハードルにぶつけバランスを崩す。2台目以降は重心が下がり、走りが硬くなった。ほとんどのハードルをひっかけてしまい、だんだんと前方の集団から引き離されていく。最後までその差は詰まることなく、結局15"34の7着でゴールした。このときの風は+0.4mだった。

予選のような伸びやかなハードリングが見られず、決勝進出を逃し残念な結果となった。普段のハードリングができれば自己ベストは更新できるはずである。今後の対校戦での活躍に期待したい。

16:45 男子2部・3部4×100mR 予選

4組2レーンに増本(4年)-西田(4年)-真木(2年)-春日(3年)の走順で出場。日が陰り、徐々に気温が下がっていく難しいコンディションであるが、午前の男子2部100m予選で西田が自己ベストを更新しただけに期待がかかる。同組の強豪日体大にくらいついてほしい。

1走増本はまずまずのスタートを切るとスムーズに加速、アウトレーンを走る茨城大を猛追し、2走西田へとバトンパス。西田はバトンを受け取ると、午前の好調そのままにアウトレーンを走る各校との距離を縮めていく。そのまま3走真木へとバトンパス。3走真木はスタートが出遅れたか、西田とかなり詰まった状態でバトンパス。その後はしっかりと加速しコーナーを駆け抜けていく。他2チームと2着を争いながら4走春日へとバトンパス。春日は着順での予選通過となる3着以内を目指して全力で走る。終盤で創価大が抜け出し、明海大との3着争いになる。なんとか前に出たいところだが両者譲らずそのままフィニッシュ。結果は、3着の明海大と100分の1秒差の42"37で4着。タイムでも拾われず、惜しくも準決勝進出はならなかった。

関東インカレという大舞台で各々良い走りできたことは大いに評価できるが、僅かな差で決勝に進めず、悔しい結果となった。これからもバトンパスの練習を継続して行い、今後の対校戦ではミスのないベストな走りを見せてほしい。

トラック2日目(5/16)

9:40 男子2部100m 準決勝

2組1レーンに西田(4年)の出場。6レーン、8レーンにそれぞれ昨年の今大会100m3位、2位の豊田(大東大)、相馬(同)がおり、ハイレベルなレースが予想されるが、なんとか4着以内に入って決勝進出を決めてもらいたい。

緩やかな追い風が吹き、青空が広がる絶好のコンディションの中、予選同様スタートをきっちり決め、30mまで遅れることなく、横一線のレースを展開する。しかし中盤で3レーンの安部(群大)、8レーンの相馬らが抜け出し、西田はやや後退する。その後必死に上位陣に食らいついていくも差は思うように詰まらず、徐々に後退しながら11"03の8着でゴール。このときの風は+0.8mであった。残念ながら決勝進出はならなかった。

このときの4着は10"89。予選の走りを考えれば4着以内に入ることも十分可能と思われるだけに、非常に悔しい結果となった。少しいのちで勝敗が大きく左右される、100mの奥深さを教えてくれるレースともなった。西田の本職は走幅跳であるので、この悔しさをぶつけて好記録を狙ってほしい。

15:20 男子2部・3部4×400mR 予選

4組6レーンに、春日(3年)-臈島(3年)-大澤(2年)-増本(4年)の走順で出場。体調が思わしくない選手もいるが、関カレの舞台で今できる最高の走りをしてもらいたい。

1走の春日は前半は落ち着いた走りを見せる。しかしラスト100mは疲れたか、6着ほどで2走臈島にバトンパス。臈島は最初のコーナーで早くも1人を捕らえ、その後も伸びやかな良い走りをする。ホームストレートでもう1人抜き去り、ラップ48秒台の好走でバトンをつなぐ。この時点で4着まで順位を引き上げた。3走の大澤も200m付近で1つ順位を上げる。ラストは疲れが見えたが、粘りの走りでなんとか逃げ切る。4走増本は、大澤とのバトンパスでもたついてしまい、順位を落としたスタート。バックストレートで1人に抜かれ離されてしまうが最後までしっ

かり走り切った。3'20"76の5着でのフィニッシュ。残念ながら決勝進出はならなかった。

昨年のベスト記録を上回ってはいるが、走り、バトンパス両方とも改善の余地がある。今後更なる記録の向上が期待される。

15:55 女子1部 4×400mR 予選

1組2レーンに久保木(2年)-浜松(2年)-鈴木(2年)-高山(4年)の走順で出場。昨年標準記録を突破したときの3選手は既に引退しており、世代交代した新チームでの標準切りを目指してほしい。

1走久保木は落ち着いてスタートを切る。強豪校が揃う中で一貫して自分の走りを保ち、2走浜松へとバトンを渡す。バトンで少しロスができてしまったものの、浜松はキレのある走りで前を追う。最後までスピードを落とさず、3走鈴木に渡るころには前との差を50mほどにまで縮めた。怪我で不安のあった鈴木だが、持ち前のスピードで序盤から飛ばし食らいつく。200m付近を過ぎてからは大きく減速するも、ラスト100mを必死に走り抜き4走高山にバトンパス。順位を上げるのは厳しいが、高山は標準記録を目指して走る。一人取り残された状態であったが、焦ることなく最後まで走りきり、4'22"93の7着でゴールした。

標準記録である4'20"00は切れなかったものの、新チームでのベスト更新となった。今後は4'10"00を目標に、来年以降の関カレで他校と競えるチームを作れるか、大いに期待したい。

16:50 男子2部・3部 10000m 決勝

依田(D3)の出場。本人としては昨年度の箱根挑戦を最後の本格的な競技への取り組みとしており、練習の強度も以前より落として本大会に臨んだ。しかし、疲労が少ない分かえって好記録も期待できる。日差しは強いが気温は高くなく、日陰も多いのでまずまずのコンディションであった。

スタート直後転倒があるも、依田は巻き込まれなかった。前半、始めは先頭集団の、2000mからはそれから遅れ始めた第2集団の後ろにつく。後半、4700mで集団の先頭の

前に出るも、それからペースダウンしてしまう。

しかし、6600mで第2集団を引っ張っていた選手が持ち直し、依田がその選手を抜き返してもとのペースに戻った。それからはバラけた第1集団の選手を抜きながらの走りで、依田は30'45"71の3部1位でゴール。大会新であった。自己ベストには約40秒及ばなかったものの、練習内容からすればなかなかの好記録で力を見せつけた。次週の5000mにも期待が集まる。

トラック3日目(5/22)

9:40 男子1部・2部・3部 10000mW 決勝

井上(4年)、早川(4年)、瀧川(2年)の出場。東大は前半入賞者なしに終わっており、後半戦最初の競技として得点の期待がかかる。特に早川は5000mWで東大記録、10000mWで歴代3位の記録を出すなど今シーズン好調で、表彰台も十分狙える状況である。また、瀧川も10000mWで46分台の自己ベスト、昨年の関カレ以来失格続きだった井上も久々に完歩を果たすなど、それぞれ好結果が期待された。

雲が多いが25度を超える暑さの中スタート。早川は3位集団、瀧川は11位につけ、それぞれ8'36"、9'17"で2000mを通過。井上は序盤からベントニーの警告を出される苦しい展開で、2000mで失格となってしまった。早川はその後先頭集団に追い付き、21'47"の3位で5000mを通過。このまま行けば好記録が期待できそうだが、少し苦しそうである。一方瀧川はペースが落ちてきた選手を拾って9位に浮上し、5000m通過は23'40"。入賞も射程圏内である。早川は後半ペースが落ちて先頭から徐々に離されてしまい、7000m過ぎで1人に抜かれ44'45"15の4位でゴール。瀧川は大きくペースを落とすことなく更に1人を抜いて、47'57"57の8位でゴールした。

各選手とも重圧の中健闘し、東大競歩陣として4年ぶりの入賞を果たした。早川は目標としていた表彰台に届かず悔いも残るが、競歩を始めて2年足らずで他大のスター選手と渡り合う姿は多くの人に勇気を与えた。個人

選手権や全カレでの雪辱に期待したい。瀧川は来年以降は更に上位を目指して頑張してほしい。井上は1年間の努力が実らず、昨年同様悔しい結果となってしまった。課題を克服し、今後の試合での好結果に期待したい。

10:50 男子2部 800m 予選

3組3レーンに渡邊(4年)の出場。日差し強く降り注ぎ、気温も高めの中でのレースとなった。渡邊は、過去2回のこの大会では予選落ちに終わっているが、今季は練習、レース共に良い走りを見せており、学部生として最後の関カレでの初の決勝進出に期待がかかる。

3組目は11:00にスタート。3レーンという内側からのスタートであったが、ポケットされることもなく4番手辺りの好位置で200mを通過する。ホームストレートに入ると順位を上げ、2番手辺りで400mを通過。その後はペースを上げた一番手につく好展開であったが、ラスト200m辺りで右側の選手と接触すると、リズムが乱れたのか一気に他の選手に追い抜かれてしまう。渡邊は少し引き離されたところで遅れてスパート。ラストは前の集団との距離を少し詰めたものの、残念ながら通過争いに絡むことは出来ず、1'56"83の5着でゴールイン。

渡邊にとって一つの集大成であった今大会だが、予選落ちという残念な結果に本人のショックも大きかったであろう。しかしシーズンはまだ始まったばかりであり、これを糧に、今後の対校戦での活躍、そして全カレ標準突破が期待される。

12:40 男子2部・3部 400mH 予選

1組2レーンに高木(3年)の出場。2日前の練習でのハードリングは好調だったようだ。スタート前の表情は若干緊張しているように見える。関東インカレ特有の空気の中、久々の54秒台、さらには自己ベスト更新はなるか。

さあスタート。アプローチは問題ない。しかし1台目からハードリング時に体が浮いてしまう。2台目以降のハードリングもうまく修正できず、失速してはまた加速というよ

うに、前半からなかなかスムーズな走りができない。序盤から前方集団に大きく離されてしまう辛い展開である。後半は粘りを見せ、ホームストレートでは必死の形相で走る。前を走る選手との差を少しでも縮めたいが、やはり前半に思うように走れなかったのが響いたか、最後は疲れが見られた。そのまま56"98の7着でフィニッシュ。決勝進出はなかった。

本来の走りができず、悔しい結果となった。現在東大の400mH勢の実力は拮抗した状態。今後は周りに刺激を与える走りをして、皆を引っ張ってほしい。今後の対校戦に期待。

トラック4日目(5/23)

9:05 男子2部・3部ハーフマラソン決勝

宮野(3年)と東(3年)の二人の出場。関東IC最終日となる試合当日は雨が降ったが気温は20度と、長距離にとってはむしろ涼しく走りやすいコンディションとなった。二人とも練習での調子は良好で、自己ベストを出すことが期待されていた。

レースが始まると、50人を超す出場者が全体で一つの集団となった。宮野はこの時先頭の方にうまくついたが、コースを一周して競技場に戻ってくる頃には集団の後方につき、手堅く自分のペースを刻んで走った。東も宮野に続き、先頭集団後方を走った。その後は箱根に出場する強豪校の選手たちが引っ張る先頭集団からは徐々に放されてしまうが、5kmの通過は宮野が15'59、東が16'02と二人ともまずまずの通過であった。以後も二人は自分のペースを上手に作ることで、ペースダウンした選手を抜き返しながら徐々に順位を上げていき、東は最後に競技場内でのスパートも成功させて1:08'20"の41位、宮野もそれに続き1:09'06"の46位でゴールした。

二人とも、自己ベストを出すことはできなかったものの、トラックシーズンに移行しつつあるこの時期であることや、当日の気候の悪さ、そして相手に箱根校の実力ある選手も多かったを考慮すると、そこそこの好成績だったと言える。長距離を代表するエースの

二人である宮野と東の、これからの対校戦や箱根予選会での活躍に期待できるだろう。

13:15 男子2部・3部5000m決勝

依田(D3)の出場。この種目は2部と同時に行われ、3部出場者は依田を含め3名。昨年度の箱根挑戦以来、練習を落として臨んだ本大会であるが、2日目の10000mでは3部優勝、大会新という結果を残しており、今回もそれと同等の結果が期待される。しかし、3部の他の2名はこの種目のみの出場なので、10000mの疲労がどれだけ影響するかが気になるところである。天候は小雨が降っていて気温は低く、記録が出やすそう。

雨で心配された転倒もなく、依田は二段スタートの外側からスタート。集団はハイペースであったが、その中ほどに位置取りし、入りの1000mを2'45"で入る。1000mを過ぎたあたりから集団の後半がバラけ始め、依田もじりじり離され始めるが、次の1000mも2'53"で走る。後半、多数の小さな集団ができ、依田はそのうちのひとつにつく。入りが速かったのでペースダウンが心配されたが、以降の1000mごとにも3'00"~3'05"で刻み、ペースを維持し、依田は14'44"18の3部2位でゴール。

2部の1位から4位までと3部の1位が大会新、上位9位までが13分台というハイレベルなレースとなった。依田は3部10000mとの2冠はならなかったものの、ともに昨年より好タイムであり、今後も対校戦等での活躍が期待される。

フィールド2日目(5/16)

13:00 女子1部・2部ハンマー投決勝

楠木(M1)の出場。この冬競技から離脱していた楠木は、準備は十分とはいえなかったが、昨年度の記録を有効利用するべく出場に踏み切った。なお、女子2部(大学院生の部)ハンマー投の出場者は楠木1人のみであった。

ハンマー投の試合は日本大学陸上競技場で行われたが、サークルが大変滑りやすく、1投目からバランスを失う学部生の選手が続出した。楠木も上手く踏ん張ることができず1投目は23m99であった。しかし、順位争いも

何もなかったので軌道修正に集中することができ、2回目には26m12と記録を伸ばした。3投目は投げ込み不足が祟ったのかバランスを崩し、23m51であった。院生は3回しか試技がないため、結局26m12の1位であった。

ファールせずに3投投げきり、3点を得たことは収穫であった。しかし、国公立戦では相手がいないというわけにいかない。これからはブランクを取り戻すことに集中し、また、学部生を刺激してほしい。

フィールド3日目(5/22)

10:00 男子2部・3部砲丸投決勝

持永(D1)の出場。太陽の日差しが強く照りつけ、会場も熱気に包まれる中、競技が行われた。持永にとっては関東インカレは5回目の出場で、今までの経験を生かして高得点をとる期待がかかっていた。

1投目を投げたときにバランスを崩し手と脚を痛めてしまったが、11m60を記録した。しかし痛めてしまった脚を気にしているのか、2投目も3投目も思うように砲丸を投げることができず手から滑ってしまい、2投目と3投目はファールにしてしまった。結局記録は1投目の11m60で2位で2点を獲得した。

持永は、練習投擲では12mを越える投擲をみせており、今後は試技の中でしっかりと記録を残せるように頑張してほしい。

フィールド4日目(5/23)

9:15 男子2部・3部円盤投決勝

3部に持永(D1)、2部に佐々木(2年)の出場。雨が降った影響で練習投擲が長びき、開始予定時刻より15分遅れて競技は開始された。

持永は雨の影響や、前日の砲丸投の際に指を痛めたこともあって精彩を欠いていた。1投目はファールで、2投目では30m04を記録するも、3投目でもやはり上手く投げることができずファールとなり、結局30m04で自己ベストとはほど遠い記録で6位に終わった。佐々木は早くも東大のエースと称されるようになり高得点の期待がかかっていた。1

投目では円盤が手から滑ってしまったものの33m73をマークした。続く2投目でも滑りファール。2投目が終わった時点でエイト入りは厳しい展開となった。しかし3投目では35m21を投げ何とか8位で前半を終えることができた。4投目からは記録を狙いに思い切って投げたが、雨の影響もあってかしっかり円盤を振り切るような投擲はできず、4投目以降全てファールとなり、8位のまま競技を終え、1点を獲得した。

2人とも持ち記録ではもっと上位を狙えていただけに残念な結果となってしまった。今後はしっかり自分の力を出し切るような試合をみせてほしい。

12:30 男子2部・3部走幅跳決勝

武安(M2)、西田(4年)の出場。午後になり雨が激しくなる中、競技は開始された。

武安は久しぶりの対校戦ではあるが、優勝も狙える実力の持ち主なので期待がかかる。1跳目はファールに終わった。2跳目も、良い跳躍を見せ、好記録を出したかと思われたが、残念ながらファールだった。3跳目は白旗が上がったものの、記録は伸びず6m87であった。三部は試技が3回までなのでこの記録で3位となった。来月の国公立戦には院生も対校選手として出場可能なので、そこでの活躍も期待したい。

前の週の100mでベストを更新した西田には大きな期待がかけられていた。西田は1跳目にいきなり6m96の自己ベストを出し、トップに立つ。しかし、2,3跳目は数cmのファール。その間に他の選手が記録を伸ばし6番手でトップエイトへ進出。5跳目に7m04を跳び、観客席を沸かせたが順位は6位のまま。7m一桁に選手が集中していたため7m10台を跳べば2位浮上という状況で挑んだ6跳目は目測では7m20程度の大ジャンプ。だが、判定はファールであった。本当に1cm程度のファールだったので惜しかった。結果、西田は記録7m04の6位で3点を獲得した。

悪条件の中でこの記録であり、また今回ファールが多かったが、どれも数cmのファールであり助走に安定感がある。少しの修正でファールが減るだろう。今後の対校戦に期待

が持てる。

男子2部・3部混成1日目(5/15)

9:00 100m

混成競技は持永(D1)の出場。今季国立競技場で向かい風の中、自己記録に迫る記録を出している100m。この日はいつに無く良い追い風が吹いており、良い記録が期待できそうである。

国土大院と筑波大院の選手に挟まれた2レーンでのスタート。若干の遅れはあったがスタートの合図で勢いよく飛び出す持永。中間疾走にかけて内側の国土大院の選手にぐいぐいと離され、外側の筑波大院の選手にも離される。しかし最後まで粘った走りをして筑波大院の選手に追い付き、11"43(+1.6)の6着でフィニッシュ。

10"95~11"03に3人が入ると言うハイレベルなレースであり、上位陣に点差をつけられてしまったが、個人としては自己ベストを0"08更新し767点を取り幸先の良いスタートとなった。

10:30 走幅跳

持永は走幅跳を苦手としており、今季もまだ6mを跳んでいない。しかし100mの自己記録に続き、なんとか良い記録を出してもらいたいところ。

1跳目、ゆっくりした助走からだんだんとピッチを上げていく。踏み切りの瞬間に少し後傾してしまっただが、踏み切り位置はピッタリで跳び出す。着地を無難に決め5m95(+2.1)を記録。2跳目、3跳目と踏み切りを変えようとするが今度は助走のスピードが上がりきらず、1跳目を上回ることではできなかった。

この種目、自己記録に20cm程及ばず、5m95の576点で終えた。3部で唯一6mを跳べなかったので走幅跳を終えた時点で7番目に順位を下げた。

12:30 砲丸投

全種目の中で相対的に一番得意な砲丸投。今季も自己記録に迫る投擲をしているため、良い記録が期待される。

1投目、グライドから突き出しまで無難に決めて11m台半ばまで飛ばしたが、身体が出てしまいファール。2投目、グライドの後、パワーポジションに入った瞬間に動きが若干崩れ、砲丸に力を加えきれずに10m36となった。3投目、2投目の記録は自己記録に遠く及ばないため、なんとか記録を伸ばしたいところ。いつになく持永は集中しているようである。威勢の良い掛け声でさらに集中を高めると、タイミングを見計らいグライドをする。そしてパワーポジションにしっかりと入ると、砲丸に無駄なく力を加え突き出す。若干押し切れなかった感じはあったがきれいな弧を描いた砲丸は12mラインの少し手前に落ち、11m89を記録。

自己ベストを2cm更新し、600点を獲得するも、順位は変わらず7番目であった。

14:50 走高跳

過去、フィールド種目の中で一番点数が高かった走高跳。今年はまだ1m70しか跳んでおらず、なんとか良い記録を出してもらいたい。

持永は1m65から試技を開始。跳躍が流れ、バーにかすってしまうがなんとか1回目成功。続く1m70。1回目、2回目はテンポの悪い助走からの跳躍で身体が流れてしまい、大腿をバーに引っかけて失敗してしまう。追い詰められた3回目。最後の一步でしっかり後傾し、なんとか高さのある跳躍をする。かすりながらではあるが、この高さを辛くも成功。続いて1m75への挑戦。1回目、補助助走から始め内傾しながら助走のテンポを上げて行く。踏み切りの瞬間もリズムを崩すことなく踏み切る。この日の中で一番良い跳躍をし、1m75をクリアしたかに思われたが、ふくらはぎがバーにあたり失敗してしまう。非常に惜しい跳躍だったので修正して2回目以降での成功が期待されたが、結局改善されず、この高さは跳べなかった。

この種目は1m70の544点で終えた。

17:40 400m

今年の始めに修士論文を執筆するなど、大学院生として忙しい毎日を送っていたため

練習時間がとれずに走り込んでいなかった持永。今季はまだ良い記録を出していないため不安が残る。

一番外側の8レーンからのスタート。スタート直後に7レーンを走る国土大院の選手に抜かれる。バークストレートでは、向かい風のためかそれとも疲れているためか動きが緩慢に見え、内側の選手にどんどん離される。第3コーナーに入るとさらに内側の選手にも抜かされてしまい、ずるずると後退して行く。最後の直線でも、持ち味の末足をいかせず、52"13の5着でフィニッシュ。初日の疲れが見えたレースとなった。

719点を獲得し、初日終了時点で3206点と初日自己記録であるが3部で7番目であった。

男子2部・3部混成2日目(5/16)

9:00 110mH

この種目は二週間前に自己記録を0"36更新し一番流れに乗れる種目である。風こそ向かってはいるが良い記録を期待したい。

両脇を筑波大院の選手に挟まれた4レーンでのスタート。スタートで国土大院の選手が頭一つ抜け出す。持永は自分のリズムを守り一台目を越える。国土大院、順大院、平国大院の選手に徐々に離されるが、他の選手には食らいつき粘りの走りを見せる。途中数台に足を引っ掛けるがインターバルをしっかりと走り切り6着でフィニッシュ。この時の記録が16"59(-1.4)で自己記録にはわずかに及ばなかったが668点を獲得し、十種競技の自己記録ペースは維持した。

10:15 円盤投

単独種目としても関東インカレの標準記録を突破している円盤投。今年も34m台を連発し、大量得点の期待がかかる。

この種目まで良いペースで来ているため、一投目は確実に投げ、記録を残したいところ。一投目、スムーズなファーストターンから投擲動作を開始したがセカンドターンで動きが硬くなってしまい、30mを少し超えただけの投擲となった。この時の記録は32m26であった。二投目では、一投目でまずまずな記録を残せたからか、一発良い記録を狙い、大

きくファーストターンを始める。そして投げ出しも思いきり振り切ったが、力みすぎてしまい、円盤が立って前に進まず30m手前に落ちる。3投目。掛け声をかけて気合いを入れた持永は、ファーストターンからセカンドターンにかけてスムーズに加速する。そして全身を大きく使い円盤を一気に投げる。35m付近に落ちるが、赤旗が上がる。大きく回りすぎたのか、つま先がサークルの外側を踏んでしまい、ファールとなった。

結局、この種目は32m26の509点となり、良い記録が期待されただけに残念な結果となった。

13:00 棒高跳

去年、この種目で助走練習を十分取ることができずに本番を迎えた持永は、一跳目にポールワークで失敗し怪我を負ってしまい、その後の種目に影響が出た。今年は、去年の失敗を繰り返さずに確実に記録を残してもらいたいところである。

練習跳躍で3m60を成功した持永は、3m60から開始した。一跳目、高さがある跳躍となったが、バーが遠く、越えることができずに失敗する。助走がいつもより走れているようで、二跳目から固いポールに変える。二跳目、しっかりと加速した助走から踏み切り、硬いポールで浮き上がった体は3m60のバーを悠々と越える。この調子で次の高さも成功してもらいたいところ。3m80の一跳目、助走から踏み切りにつけしっかりと加速するも、突っ込みが若干遅れる。それでもバーを越えるがアップライトが若干合わずに失敗。二跳目、アップライトを変え再度チャレンジするも、突っ込みで完全に潰れてしまい、クリアランス動作もできずに失敗。三跳目、一跳目と同様助走の加速は良いが、突っ込みで若干つぶれてしまう。しかしそれでも体を上に持ってきてバーを越えるが、またしてもアップライトが合わずに失敗。

バーは越えており、惜しい跳躍が重なったことは残念であったが、確実に3m60を跳べたことは良かったと言える。この時の得点は509点であった。

15:30 やり投

他の二種目の投擲種目と比べると明らかに下手なやり投であるが、本人は一週間ほど前に改善したと言っており、期待薄ながら良い記録を出してもらいたい種目である。

一投目、30m弱の助走からクロスステップに入り、大きい腕の振りで投げ出す。以前の減速するクロスステップや、肘が下がった小さい投げとは違い確かに改善が見られた投擲であった。この時の記録は44m10となり、十種競技ベスト記録となった。二投目、一投目で良い記録を出して、調子に乗ってきたかに見えたが、以前の下手な手投げに戻ってしまい41m03であった。三投目、冷静になって投げてもらいたいところであったが、もはや完全に手投げになってしまい、40mにも届かなかった。

他の二種目の投擲が得意なだけに槍投の下手さが目立ってしまうが、なんとか44m10の502点となり、辛くも500点を超えた。

18:15 1500m

去年まで、十種競技の中では向かうところ敵なしと言った感じの1500m。今年も一着でゴールしてもらいたいところだが、今シーズンのここまでの試合は燦々たるものであるだけに不安が残る。ここまでの合計得点で5394点と6000点超えが確実なだけに気を抜くことなく頑張ってもらいたい。

2部3部同時スタートのため、19レーンからのスタートとなった持永。号砲と同時に前に出て5番手あたりに着く。そこから徐々に順位を上げていき2番手に着く。最初一周の入りが66秒前後と速いながらも持永にとってはついて行けるペースである。しかし、2周目を過ぎたあたりから徐々に順位を下げていく。1000mの通過時に8番目あたりに後退するが、そこからしっかりと粘り、最後の一周は順位を落とすことなくフィニッシュ。この時の記録は4'39"09であり、686点を獲得した。いつになく遅い1500mであったが最後まで記録を狙おうとした姿勢は素晴らしかった。

男子2部・3部混成競技総括

2種目で自己記録を、1種目で十種競技内記録を更新し、大きく崩れた種目もなく安定した十種競技で6080点と自己記録を更新したことは素晴らしいと言える。しかし、ベテランとして各種目が安定してきたことは良かったが、走高跳、棒高跳、1500m等はここ数年伸びていないだけに、今後改善をして全体として良い記録を出してもらいたい。また対校戦で人数が足りない種目も十種競技には含まれているので、ぜひ、後進の育成にも力を入れてもらいたい。

1.5 試合結果

第89回関東学生陸上競技対校選手権大会

於 国立霞ヶ丘競技場 (H22.5.15,16,22,23)

於 日本大学陸上競技場 (ハンマー投)

2部男子100m決勝(+2.6)

1	福島裕之	日体大	10"44
2	平山大樹	創価大	10"56
3	田中俊	成蹊大	10"62
4	渡辺敬志	日体大	10"65
5	堀内貫平	都留文大	10"66
6	豊田晃己	大東大	10"67
7	宮崎宏仁	成蹊大	10"74
8	安部文隆	群大	10"78

2部男子100m準決勝(4着)

2組(+0.8)			
8	西田昂広	東大	11"03

2部男子100m予選(3着+4)

1組(+0.1)			
5	西田昂広	東大	10"83 q

2部男子200m決勝(+0.3)

1	福島裕之	日体大	21"11(EGR)
2	佐藤大志	青学大	21"24
3	堀内貫平	都留文大	21"66

4	豊田晃己	大東大	21"79
5	青木邦成	都留文大	21"86
6	安部文隆	群大	21"95
7	関根幸大	大東大	21"97
8	齋藤隼也	立大	22"20

2部男子200m予選(3着+4)

2組(-1.6)			
-	西田昂広	東大	DNS

2部男子800m決勝

1	月野雄一	日体大	1'51"73
2	佐藤豪	専大	1'51"89
3	松本圭介	日体大	1'51"94
4	中嶋雅達	大東大	1'52"60
5	奥澤匠	東経大	1'52"99
6	甲斐研人	日体大	1'54"91
7	斉藤和輝	一橋大	1'55"11
8	守口亜希人	創価大	1'55"60

2部男子800m予選(1着+4)

3組			
5	渡邊拓也	東大	1'56"83

2部男子ハーフマラソン決勝

1	千葉健太	駒大	1:04'42
2	木下潤哉	東農大	1:04'51
3	小林光二	中央学大	1:05'10
4	高関伸	大東大	1:05'10
5	瀬口啓太	亜大	1:05'11
6	木村翔太	東農大	1:05'23
7	仁科徳将	國學院大	1:05'24
8	井上翔太	駒大	1:05'25
41	東大貴	東大	1:08'20
46	宮野健司	東大	1:09'06
-	竹俣直道	東大	DNS

2部男子110mH決勝(+0.9)

1	佐藤大志	青学大	14"04
2	栗野祐弥	日体大	14"32
3	牛田朋宏	青学大	14"40
4	奥岡信也	東理大	14"52

5	水野龍彦	日体大	14"55
6	廣田康大	東経大	14"56
7	吉村健吾	日体大	14"63
8	武井隼児	群大	14"78

2部男子 110mH 準決勝 (4着)

2組 (+0.4)

7	酒谷彰一	東大	15"34
---	------	----	-------

2部男子 110mH 予選 (3着+1)

2組 (+3.8)

2	酒谷彰一	東大	15"10	Q
---	------	----	-------	---

5組 (+2.3)

4	増本健太郎	東大	15"72
---	-------	----	-------

2部男子 400mH 決勝

1	常世田光広	千商大	51"68
2	水野龍彦	日体大	51"75
3	藤原啓史朗	立大	52"37
4	長島貴之	東学大	52"43
5	大塚侃紀	日体大	53"91
6	小金沢篤	東学大	54"28
7	山田駿	立大	54"95
8	赤木大介	都留文大	55"84

2部男子 400mH 予選 (1着+4)

1組

7	高木海平	東大	56"98
---	------	----	-------

2部 10000mW 決勝

1	村上格	東学大	43'53"99
2	佐久間貴弘	千商大	43'58"60
3	高島佑太	東京外大	44'37"17
4	早川晃司	東大	44'45"15
5	井上宗治	日体大	45'51"42
6	中島啓太	東農大	46'30"73
7	藤永健太	帝京大	47'11"60
8	滝川朗	東大	47'57"57
-	井上雄介	東大	DSQ

2部男子 4 × 100mR 決勝

1	大東大	40"36
---	-----	-------

2	日体大	40"37
3	都留文大	40"54
4	駿河台大	41"02
5	東経大	41"05
6	成蹊大	41"33
7	横国大	41"35
8	東学大	41"56

2部男子 4 × 100mR 予選 (3着+1)

5組

4	東大	42"37
(増本-西田-真木-春日)		

2部男子 4 × 400mR 決勝

1	日体大	3'11"25
2	大東大	3'11"44
3	立大	3'13"96
4	都留文大	3'14"54
5	駿河台大	3'16"01
6	千商大	3'18"21
7	横国大	3'18"62
8	東学大	3'20"28

2部男子 4 × 400mR 予選 (1着+4)

2組

6	東大	3'20"76
(春日-舩島-大澤-増本)		

2部男子 走幅跳 決勝

1	辻将也	大東大	7m42(+1.5)
2	栗原諒	東学大	7m07(-0.3)
3	宮川将宗	高崎経大	7m07(-0.2)
4	岡村健太	日体大	7m06(-1.0)
5	松浦晨	横国大	7m04(+0.5)
6	西田昂広	東大	7m04(+0.4)
7	幸雄司	大東大	6m98(+0.7)
8	林陵平	都留文大	6m96(+0.7)

2部男子 三段跳 決勝

1	林武彦	日本橋学大	15m38(-0.4)
2	松浦晨	横国大	14m59(-0.5)
3	松堂永	立大	14m35(+1.8)

4	林陵平	都留文大	14m34(+0.2)
5	宮川将宗	高崎経大	14m32(-0.8)
6	土岐泰徳	日体大	14m28(-0.8)
7	川尻嶺	横国大	14m26(+3.7)
8	新津裕大	横国大	14m20(-0.4)
-	<u>定金駿介</u>	東大	DNS

2部男子砲丸投決勝

1	森井亮平	日体大	12m95
2	白山和輝	防大	12m93
3	矢島光明	日体大	12m55
4	神野雄貴	流経大	12m33
5	渡部陽太	関東学院大	12m20
6	高階一也	横国大	11m98
7	岡本秀樹寿	創価大	11m92
8	中西啓太	明海大	11m91
-	<u>佐々木駿</u>	東大	DNS

2部男子円盤投決勝

1	森井亮平	日体大	45m69
2	金成啓太	松陰大	40m93
3	ホアン	茨城大	38m86
4	福島大喜	日体大	38m13
5	神野雄貴	流経大	37m45
6	小島聡	東学大	36m45
7	岡本秀樹	創価大	35m34
8	<u>佐々木駿</u>	東大	35m21

2部男子やり投決勝

1	小川真	大東大	60m86
2	齋藤駿介	高崎経大	58m37
3	小川翼	流経大	56m63
4	河本佳範	創価大	56m27
5	ホアン	茨城大	55m82
6	桑田俊充	横市大	55m78
7	百木田将広	作新学大	53m49
8	石川淳太郎	東学大	53m37

2部男子やり投予選(Q:58m50)

2組

-	<u>千葉伸宏</u>	東大	DNS
---	-------------	----	-----

1部女子4×400mR決勝

1	中大	3'39"59(NGR)
2	青学大	3'40"09
3	早大	3'40"65
3	都留文大	3'40"65
5	日体大	3'42"29
6	筑波大	3'42"85
7	平成国大	3'45"01
8	日女体大	3'47"66

女子4×400mR予選(2着+2)

1組

7	東大	4'22"93
(久保木-浜松-鈴木-高山)		

3部男子5000m決勝

1	有賀健	筑波大院	14'30"49(NGR)
2	依田崇弘	東大院	14'44"18
3	宮崎大佑	国士大院	15'17"04

3部男子10000m決勝

1	依田崇弘	東大院	30'45"71(NGR)
2	笠原慧	東工大院	32'12"69

3部男子砲丸投決勝

1	久保田尊士	山梨大院	12m46(NGR)
2	持永新	東大院	11m60
3	東谷洵	横国大院	11m31

3部男子円盤投決勝

1	町田慎	国武大院	47m38
2	久保田尊士	山梨大院	34m53
3	田村祐太	群大院	34m42
6	持永新	東大院	30m04

3部男子十種競技決勝

1	村田龍	国士大院	7181
2	林田章紀	順大院	6975
3	中嶋祐介	東学大院	6287
4	持永新	東大院	6080

1部男子総合		
1	東海大	108
2	筑波大	99.2
3	早大	88
14	城西大	23
15	平成国大	22(降格)
16	上武大	11(降格)

2部男子総合		
1	日体大	206.5(昇格)
2	大東大	64(昇格)
3	東学大	57.5
23	東大	10

1部女子総合		
1	筑波大	145
2	中大	128
3	日体大	74

3部男子総合		
1	順大院	30
2	筑波大院	11
3	国武大院	10
6	東大院	8

2部女子総合		
1	筑波大院	30
2	日女体大院	11
3	東大院	3
3	東学大院	3
3	山梨大院	3
3	日体大院	3
3	国武大院	3

2 2010年度部内5傑 2010.5.23

*学年は2010/4/1時のもの

男子 100m

1	西田昂広(4年)	10"83(+0.1)	5.15
2	春日慶輝(3年)	11"15(+1.8)	5.8
3	菊池典晃(2年)	11"47(+0.5)	5.5
4	真木伸浩(2年)	11"51(-0.5)	4.25
5	増本健太郎(4年)	11"52(-1.2)	4.25

男子 200m

1	西田昂広(4年)	22"20(+1.0)	4.24
2	真木伸浩(2年)	22"81(+1.0)	4.24
3	山下修平(2年)	23"87(-0.5)	5.1
4	水上雄太(4年)	24"34(+1.2)	4.24
5	舩島一樹(3年)	28"86(+1.0)	4.24

男子 400m

1	大澤涉(2年)	49"73	4.25
2	水上雄太(4年)	52"85	5.1
3	原湖楠(4年)	54"06	4.24
4	近藤堯之(4年)	54"70	4.25

男子 800m

1	渡邊拓也(4年)	1'56"33	5.1
2	園部竜也(4年)	1'59"55	5.1
3	近藤堯之(4年)	2'00"37	5.5
4	須田遊人(5年)	2'01"19	5.1
5	池田剛志(3年)	2'01"24	5.1

男子 1500m

1	東大貴(3年)	4'06"15	4.25
2	山田竜也(3年)	4'06"83	4.17
3	大内田弘太郎(2年)	4'07"25	5.1
4	渡邊拓也(4年)	4'08"27	3.25
5	渡邊駿(2年)	4'09"25	4.25

男子 5000m

1	宮野健司(3年)	14'56"00	5.2
2	東大貴(3年)	15'05"04	4.3
3	山田竜也(3年)	15'21"04	4.18
4	青木佑樹(3年)	15'41"67	4.3
5	岩川純也(2年)	15'46"32	4.18

男子 10000m

1	東大貴(3年)	30'46"98	5.1
2	宮野健司(3年)	30'51"94	5.1
3	青木佑樹(3年)	31'42"51	5.1
4	大久保翔平(2年)	33'16"65	5.1
5	中島圭一(4年)	33'21"52	4.17

男子ハーフマラソン

1	東大貴(3年)	1:08'20"	5.23
2	宮野健司(3年)	1:09'06"	5.23
3	青沼和幸(2年)	1:20'22"	4.11
4	渡邊陽大(2年)	1:25'36"	4.11

男子 110mH

1	酒谷彰一(4年)	15"25(+1.9)	5.4
2	増本健太郎(4年)	15"81(+1.2)	4.3
3	江間輝裕(4年)	15"87(+2.0)	5.5
4	原湖楠(4年)	19"57(-0.2)	4.25

男子 400mH

1	高木海平(3年)	56"61	5.15
2	酒谷彰一(4年)	56"93	5.3
3	赤木裕(4年)	57"94	4.3

男子 3000msc

1	青木佑樹(3年)	9'27"96	4.3
2	渡邊駿(2年)	9'58"26	4.3
3	渡邊拓也(4年)	10'07"12	4.11
4	大久保翔平(2年)	10'16"84	3.24
5	岩川純也(2年)	10'20"49	3.24

男子 5000mW

1	早川晃司(4年)	21'06"56	4.29
---	----------	----------	------

男子 10000mW

1	早川晃司(4年)	43'57"57	3.25
2	瀧川朗(2年)	46'23"46	3.25
3	井上雄介(4年)	53'46"56	5.3

男子 走幅跳

1	西田昂広(4年)	7m04(+0.4)	5.23
2	真木伸浩(2年)	6m13(+0.8)	4.24
3	酒谷彰一(4年)	6m08(+2.0)	4.24
4	畠山剛治(4年)	4m84	5.5

男子 三段跳

1	西田昂広(4年)	13m37(+1.7)	4.3
2	廣瀬彬(5年)	13m34(+1.7)	4.3

男子 走高跳

1	坂本智(4年)	1m80	5.2
2	地子智浩(5年)	1m70	4.3

男子 棒高跳

1	原湖楠(4年)	3m50	4.3
2	土居富裕(3年)	3m50	4.3

男子 砲丸投

1	佐々木駿(2年)	10m24	4.3
2	原湖楠(4年)	9m63	4.24

男子 円盤投

1	佐々木駿(2年)	38m02	4.3
2	片山卓也(2年)	31m98	5.5
3	原湖楠(4年)	29m52	4.25

男子 やり投

1	山元明人(1年)	45m25	4.24
2	原湖楠(4年)	40m77	4.3
3	今村昌平(2年)	33m13	4.3
4	山東誉英(2年)	29m14	4.24

男子 十種競技

1	原湖楠(4年)	4806点	4.24-25
---	---------	-------	---------

女子 100m

1	鈴木理香(2年)	13"66(-2.0)	4.10
2	久保木結(2年)	13"88(-1.8)	4.3
3	高山花子(4年)	14"41(-1.8)	4.3

女子 400m

1	久保木結(2年)	1'04"63	4.18
2	浜松由莉(2年)	1'05"94	5.5
3	鈴木理香(2年)	1'06"03	4.10
4	高山花子(4年)	1'08"98	5.1

女子 800m

1	浜松由莉(2年)	2'23"32	5.1
2	岩上佳世(2年)	2'44"09	5.1
3	鈴木恵美里(3年)	2'54"10	3.24

女子 1500m

1	杉浦奈実(2年)	5'18"06	4.3
2	立岡美夏子(2年)	5'18"25	4.3
3	鈴木恵美里(3年)	5'30"65	4.25

女子 3000m

1	杉浦奈実(2年)	11'07"70	5.1
2	鈴木恵美里(3年)	11'29"76	5.1
3	立岡美夏子(2年)	11'48"47	5.1

女子 100mH

1	久保木結(2年)	15"46(+1.1)	5.1
---	----------	-------------	-----

女子 走幅跳

1	高山花子(4年)	5m00(+1.1)	5.5
---	----------	------------	-----

女子 走高跳

1	丹家里枝(2年)	1m45	4.25
---	----------	------	------

女子 円盤投

1	武田有希子(1年)	31m84	4.24
---	-----------	-------	------

3 自己記録更新者一覧 2010.4.4~5.23

4/18 第206回日本体育大学長距離競技会

5000m 岩川純也(2年) 15'46"32

4/24-25 第11回東京大学競技会

200m 西田昂広(4年) 22"20(+1.0)
 400m 大澤渉(2年) 49"73
 800m 大内田弘太郎(2年) 2'03"79
 800m 鈴木俊輔(3年) 2'07"48
 1500m 渡邊駿(2年) 4'09"25
 1500m 宮野健司(3年) 4'12"30
 5000m 鳶田洸一(4年) 16'01"73

4/29 第7回チャレンジミートウ in くまがや

5000mW 早川晃司(4年) 21'06"56

5/1-2 第207回日本体育大学長距離競技会

800m 池田剛志(3年) 2'01"24
 800m 近藤堯之(4年) 2'01"95
 800m 浜松由莉(2年) 2'23"32
 800m 岩上佳世(2年) 2'44"09
 1500m 大内田弘太郎(2年) 4'07"25
 1500m 鈴木俊輔(3年) 4'17"49
 3000m 鈴木恵美里(3年) 11'29"76
 5000m 宮野健司(3年) 14'56"00
 5000m 渡邊駿(2年) 15'48"68
 5000m 渡邊陽大(2年) 16'36"72
 10000m 宮野健司(3年) 30'51"94

5/5 日大競技会

800m 近藤堯之(4年) 2'00"37
 110mH 江間輝裕(4年) 15"87(+1.2)
 円盤投 片山卓也(2年) 31m98

5/15-16,22-23 関東インカレ

100m 西田昂広(4年) 10"83(+0.1)
 100m 持永新(M2) 11"43(+1.6)
 走幅跳 西田昂広(4年) 7m04(+0.4)
 砲丸投 持永新(M2) 11m89
 十種競技 持永新(M2) 6080

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

国立競技場にて行われました関東インカレに際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1948年卒 山崎英也
 1963年卒 井上尚男
 1964年卒 八島秀雄
 1965年卒 細越駿
 1965年卒 渡部一之
 1966年卒 上田裕一
 1976年卒 田上静之
 1979年卒 中谷敬二
 1982年卒 溝口勝
 1983年卒 八田秀雄
 1985年卒 吉川暢宏
 1986年卒 半田敬信
 1988年卒 寺田秋夫
 1991年卒 小野満
 1999年卒 明石顕
 1999年卒 佐藤仁志
 2001年卒 岡野浩行
 2001年卒 近藤航介
 2001年卒 中台慎二
 2001年卒 新妻拓弥
 2003年卒 高梨幹生
 2003年卒 橋本武
 2005年卒 春木洋輔
 2007年卒 竹内昌男
 2007年卒 林盛
 2008年卒 石原宏尚
 2008年卒 今村岳
 2008年卒 小澤聡
 2008年卒 月崎竜童
 2008年卒 藤本元太
 2008年卒 松本翔
 2008年卒 持永新
 2008年卒 山本祥
 2008年卒 山本卓典
 2009年卒 梅田麻希
 2009年卒 梶岡利之
 2009年卒 門脇啓太
 2009年卒 倉員智瑛

2009年卒 小福田大輔
 2009年卒 菅野雄大
 2009年卒 武安光太郎
 2009年卒 福田篤
 2009年卒 松本光一
 2009年卒 割沢高行
 2010年卒 荒井博貴
 2010年卒 石川恭平
 2010年卒 景山瑞貴
 2010年卒 川村知正
 2010年卒 日下桃子
 2010年卒 坂井啓一
 2010年卒 清水蘭

ご多忙の中、お越し下さいましたことに現役部員一同、心より御礼申し上げます。

4.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 国公立戦
6/13(日) 大井
- 個人選手権
6/18(金)・19(土)・20(日) 平塚
- 四大戦(主管)
7/3(土) 上尾
- OB・OG戦(T・Kマスターズ)
7/10(日) 駒場グラウンド
- 七大戦
7/31(土)・8/1(日) 名古屋・瑞穂
- 一橋戦(主管)
9/4(土) 駒場グラウンド
- 日本インカレ
9/10(金)・11(土)・12(日) 国立競技場
- 京大戦
10/9(土) 京都・山城
- 箱根駅伝予選会
10/16(土) 国立昭和記念公園

- 第12回東大競技会
10/30(土)・31(日) 駒場グラウンド
- 第1回ディスタンスチャレンジ
11/28(日) 駒場グラウンド

4.3 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL: 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail: seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:早川晃司

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-39-11

TEL: 090-5761-9980

FAX: 0422-47-8726

E-mail: shumu@uttff.org

この部便りは下記 web ページでもご覧になれます

<http://www.uttff.org/>

また、現在、陸上運動倶楽部のメーリングリスト「uttff club」にて、大会結果の速報および部便りのメール送付等を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方、もしくは部便りの郵送不要の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい

主務 早川晃司

文責: 木内久雄